

現代朝鮮語の相互構文

崔昌玉
松山大学

1. 本稿の目的

本稿の目的は現代朝鮮語において相互(reciprocal)¹が形態論的, 統辞論的にどのように表現されるかを考察・記述し, 現代朝鮮語の相互構文を分類するところにある。

本稿は次の内容から構成される。まず, 相互に関する先行研究から相互とは何かを概観し, 本稿で使用する相互を定義する。次に, 現代朝鮮語の相互構文を考察し, それらを記述・分類する。最後に, 今後の課題を示すことにする。

2. 相互とは何か

2.1. 一般言語学の相互

相互とは一体どういうことを意味するのだろうか。一般言語学の術語を包括的に取り扱っている Trask(1993:229)では, 相互を以下のように規定する。

照応詞(anaphor)², あるいはそのような照応詞を含む構文。その構文は2つの実体の動作を表現したり, それ以上の実体の動作を表現したりする。最もよく知られた英語の照応詞は each other である。例文としては ‘Janet and Elroy are not speaking to each other. (ジャネットとエルロイは互いに話し合っていない。)’ がある。

Trask(1993)では, 形態論的に相互形を規定せず, 相互構文や相互を統辞論的にあるいは意味論的に規定しているに過ぎない。その理由としては, 2つが考えられる。1つ目の理由は現代英語の特徴である。現代英語では, 形態論的に相互を表わす標示が存在せず, ‘meet(会う), marry(結婚する), love(愛する)’ 等々の語彙や ‘each other(お互い)’ という代名詞, あるいは統辞論的方法によって相互を表現する。2つ目の理由は Trask(1993)そのものの特徴である。Trask(1993)は一般言語学の術語を包括的に整理しているのであって, 各言語の形態論を全て網羅的に掲載することをその特徴とはしていない。これらの理由から先のような説明になったと考えられる。

しかしながら, 本稿では, Trask(1993:229)の相互の規定を全面的に採用することはしない。というのは, 本稿では, 個別言語の形態論を記述することこそが言語学において重要な意味をもつと考えるからである。

一方, Frajzyngier&Cuf1(2000)では, 各々の研究者が様々な方法論を用いて, 相互をそれぞれに規定している。それ故, この論集では, 諸言語の相互を積極的に記述するというよりは, 相互を規定する折の方法論により多くの焦点を当て, 諸言語の資料も理論を正当化するための証拠として提示している感が否めない。

さて, ある文法現象を機能=意味論的に考察する接近法は言語類型論の研究において頻繁に使用されているにも関わらず, その機能=意味論的接近法を使用して, 諸言語においてその文法現象がどのように表現されているかを詳細に記述しようとする研究は言語類型論においてそれほど多くない。そのような状況の中でもレニングラード学派³は形態論を重要視する方法論を採用し, 言語類型論的研究をおこなっているという点で興味深い存在である。本稿では, レニングラード学派が相互を言語類型論的に考察した折, 使用した方法論を採用し, その方法論から現代朝鮮語の相互を考察することにする。

さて, この節の残りの部分では, レニングラード学派の接近法を正確に理解する意味でも, 言語類型論の領域では, どのような方法論を使用しているかを整理することにしよう。

池上嘉彦(2000:50-92)では, 言語類型論の接近法として(1)一般化志向的なもの, (2)分類志向的なもの, (3)個別言語志向的なものを示しながら, 現在の言語類型論がもっぱら関心を寄せているのは一般化志向的な接近法であるとする。池上嘉彦(2000)では, それぞれの接近法を用いた端的な例を以下のように示す(以下, 池上嘉彦(2000)の記述を引用する場合は括弧をそのまま残しておくことにする)。

【一般志向的な接近法を用いた端的な例】

<基本語順>という言語的カテゴリーの実現形式としてSV0(主語+動詞+目的語), SOV(主語+目的語+動詞)などが確認され, 他方<格関係>というカテゴリーの実現形式として「前置詞+名詞」, 「名詞+後置詞」などといった可能性のあることが確認された場合, 基本語順がSV0である言語は格関係の表示に関して「前置詞+名詞」, SOVである言語は「名詞+後置詞」という相関関係が十分有意義な確率で認められるというような場合である。

【分類志向的な接近法を用いた端的な例】

<基本語順>としてSV0, SOVなど限られた有限個のものが人間の言語における可能な語順として確認されうることを受けて, 諸言語を<SV0言語>, <SOV言語>などという類型に分けるような場合である。

【個別言語志向的な接近法を用いた端的な例】

ある特定の言語(ないし語族)について, それを他の言語(ないし, 語族)と区別し, 特徴づけるものを規定しようとする場合である。具体的な実践例としてフンボルトの<内部形式>⁴を取り上げることができる。それを言語の各部分にまで浸透して働き, それによって言語全体を1つの統合体として特徴づけている動因と解するならば, そのような意味での<内部言語形式>を問題となる言語について確認, 規定することが<個別言語志向的>な言語類型論の課題ということになる。

池上嘉彦(2000:61)では, 個別言語志向的な接近法をとる言語類型論がそれほど多くないとし, その原因としてその方法論には多かれ少なかれ直観的な洞察に頼らざるを得ない, つまり実証的な証拠の積み重ねよりも, 思弁的な考察が先走りし易いという点をあげている。たしかに各々の言語の状況を考察し, その言語記述を一般言語学に還元するよりも一般化した概念を個別言語に適用し, 考察するほうが容易である。だからといって, 個別言語の状況を曖昧にしたまま, 言語の普遍性をいくら論じたとしても, その議論はあまり説得力のないもののように感じられる。池上嘉彦(2000:66)でも, ある言語的カテゴリーの実現の形式の変動の範囲を単に実証的に確認するというだけでなく, そのようにして確認された事実は実は相互にある形態を構成する形で関連し合っており, そこからひき出しうる意味合いが何であるかを提示するという<個別言語志向的>類型論寄りの視点からの接近法が言語類型論においても徐々に浸透しつつあることに言及している。

本稿では, 池上嘉彦(2000)で言及するところの個別言語志向的類型論を部分的にでも実践しているのが, レニングラード学派であると考え。その理由として, (1)言語理論を構築する言語学者と諸言語を調査する調査者の仕事が別々に配分されている点, (2)議論が理論一辺倒にならないように, 理論家と各言語の調査者が一同に会し, 話し合う場が何度か設定される点があげられる⁵。

2.2. レニングラード学派が規定する相互

レニングラード学派の相互の規定を概観する前に, 本稿が他の理論の中でも, 特にレニングラード学派の理論を使用する理由を述べることにする。その理由として, (1)形態論を重要視する点, (2)理論よりも記述に重点を置く点, そして(3)理論に合わない例を例外として取り扱わない点がある。これらの理由を簡単に説明することにしよう。

まず, 最初の理由についてである。形態論よりも下位のレベルに属する音韻論や音声学の記述があつてはじめて, 形態論を議論することができることは周知の事実であるが, 形態論を重要視する態度はその上位のレベルである統辞論や意味論を記述するためには必要不可欠である。レニングラード学派では, 1つ

の理論的枠組みを確立し、その枠組みに照らし合わせて、諸言語の文法現象を記述しているが、それぞれの言語においてその文法に関わる形態がどのように作られるかというパラダイム(語形変化表)の考察も十分におこなっている。

次の理由について説明することにしよう。言語学において重要視されるものは、ある文法現象を記述する折に使用する言語理論ではなく、その1つ1つの記述内容である。言語理論を過大に評価するあまりに、言語記述をほとんどおこなっていない研究も少なくない。本稿では、そのような立場をとらないということである。

最後に、理論に合わない用例を例外として取り扱うよりも、最初からそのような例外を無視する態度をあらためなければならぬことに言及する必要がある。というのも、体系の精密性を追求しすぎるために、既存の体系あるいは新しい体系からはみ出るものを考慮すると、その体系の精密性が崩れると考える研究者が多いからである。本稿では、言語の体系において例外はすべからず存在するものと考え、その例外をも記述してこそ、言語の研究が成立するという立場をとる。それ故、本稿では、これらの点を兼ね備えたレニングラード学派の理論に基づき、現代朝鮮語の相互構文を考察し、記述するのである。

では、レニングラード学派において相互がどのように規定されているかを概観することにする。

Nedjalkov (ed.) (2007)では、他のレニングラード学派の著作と同じように、理論的な枠組みに関する論文を最初に提示する。その論文のうちの1つがNedjalkov(2007)である。

まず、Nedjalkov(2007:6-7)では、‘John and Bill are friends. (ジョンとビルは友達である。)’のように、互いに同一でかつ逆の関係である、つまり意味論的項⁶が同じ意味論的内容を持つ、少なくとも2つの実体を持つ状況を典型的な相互の意味を決定する因子とする。更に、ジョンがビルを殴ったという出来事とビルがジョンを殴ったという出来事を1つの出来事として指し示す‘John and Bill hit each other. (ジョンとビルは殴り合った。)’のように、意味論的項が2つの同一の意味論的役割を果たす、つまりジョンもビルも動作を行うもの、動作を受けるものどちらにもなり得るということも典型的な相互の意味を決定する因子と見做している。しかし、このような相互の意味の規定は、Nedjalkov(2007:7)で指摘しているように、多かれ少なかれ他の先行研究においてもなされているものであり、先に概観したTrask(1993:297)の規定とそれほどの大差あるものでもない。

ただし、Nedjalkov(2007:8)では、以下のものを厳密に区別している。その区別とは基本形とそれに対立する相互形という形態論、そして基本形を含む非相互構文と相互形を含む相互構文という統辞論である。そして、例えば‘Ann and Mary hugged each other. (アンとメアリーが抱き合った。)’におけるアンとメ

アリーの意味論的役割はどちらも相互者(reciprocant)であるという指摘も一部の先行研究を除いてされてこなかったものである⁷。これらの指摘に加えて、Nedjalkov(2007:32-41)では、相互の標示によって示される意味として相互だけではなく、共格(sociative)、随格(comitative)、補助格(assistive)も類型論的に認められるとする。これらは一見すると統辞論的機能を伴う格形式のように考えられるが、そうではない。Nedjalkov(2007:32-41)では、それぞれの意味と機能を以下のように規定している。

共格…ある動作が主体に指名され、同じ活動に従事する一団の人々(少なくとも2人)によって一緒にそして同時におこなわれることを意味する。また、その機能は基本構文の結合価を変えないことである。

随格…2つの関与者が、それぞれは(相互の意味におけるように)単独か集団であるが、その関与者のうちのどちらが動作の発起人(initiator)であるかを指示することなしに、一緒におこなうことを意味する。また、その機能は基本構文の結合価を1つ減らすことである。

補助格…2つの関与者が、動作と補助の発起人であるが、各々が単独あるいは一団の人々が同じ動作を一緒におこなうことを意味する。また、その機能は基本構文の結合価を1つ減らすことである。

つまり、相互者の関係でこれらを比較すると、共格は相互者以外にその動作をおこなうように仕向けるものがまた別にいることを表わし、随格はどちらの相互者の意向でその動作がおこなわれているかは明示されず、補助格はどちらの相互者も同じ動作を達成することを目的としている。

ところで、レニングラード学派の一連の研究では、文法範疇の表現形式が諸言語においてどのように現れるかを記述するために、機能=意味論的範疇を設定する⁸。このような考えは重要である。というのも、文法範疇をどのように表わすかは諸言語によって異なり、単に形態論的に表現される文法範疇だけでは諸言語のそれぞれの表現形式をとらえることができない場合が数多く存在するからである。例えば、このような考えを相互に適用すると、次のようになるだろう。かりに諸言語において(1)相互が受動や再帰と同じ形式で形態論的に標示されたり(例えば、ロシア語の‘-sja’はそれが付く動詞によって受動を表したり、再帰を表したり、相互を表したりする)、(2)形態論に頼らず、統辞論や副詞によって相互が表わされたり(例えば、英語の‘each other’を思い出されたい)、(3)単に語彙だけで相互が表わされたり(例えば、日本語の‘会う’を思い出されたい)するのであれば、このうち、文法範疇としての相互と認定し得るのは(1)の方法しかない。しかしながら、機能=意味論的範疇としての相互性が設定されれば、先の(2)や(3)の方法も相互性として認められ得る。つまり機能=

意味論的範疇としての相互性の中には、形態論に頼るもの、統辞論に頼るもの、副詞に頼るもの、あるいは語彙に頼るものが含まれるのである。地理的にあるいは系統論的に何の関係もない諸言語において相互性がどのように表わされるかを考察・記述したものが、Nedjalkov (ed.) (2007)である。

相互を意味論的に規定した上で、Nedjalkov(2007:9-16)では、諸言語において相互がどのように表現されるかを概観し、その全体像を提示している。以下の図は、Nedjalkov(2007)を考察した Köning&Gast(2008:13)によって描かれたものである(本稿では、それを多少修正して、提示している)。

相互						
語彙的	文法的					
	統辞論的		形態論的			接語 ⁹ 的
	多節的	自由標示的	分析的	複合語的	動詞的	

図 1. Nedjalkov(2007)の相互の分類(Köning&Gast(2008:13)の修正版)

この図の中にある1つ1つの術語に対するNedjalkov(2007)の説明を提示することにしよう。

まず、語彙的に相互を表わす例として、Nedjalkov(2007:14-16)では、ロシア語の最終接尾辞(postfix)¹¹である‘-sja’を取り上げている。また、ロシア語では、語彙的に相互を表わす例が約1,000個存在するが、そのうちこの‘-sja’によって語彙的に相互を表わす例が約400個存在すると指摘している。

次に、統辞論的に相互を表わす例であるが、英語の‘My father respected his neighbor and the neighbor respected my father. (私の父が彼の隣人を尊敬したし、その隣人が私の父を尊敬した。)’のような例が多節的な例に属し、英語の代名詞‘each other(互いに)’やドイツ語の副詞‘gegenseitig(互いに)’を含む文を自由標示的な例とする。

そして、Nedjalkov(2007:12)では、形態論的に相互を表わす例のうち、分析的な例は述語成分が2単語以上からなる文法的な形によって表わされるものとする。また、複合的な例は述語成分が複合語であり¹²、動詞的な例は述語成分が接頭辞、接尾辞等を含む接辞によって表現されているものであるとする。そして、疊語的な例は述語成分が同じ形態を繰り返すことによって成立しているものであるとしている。

最後に、接語的な例としては、ドイツ語の‘sich’やフランス語の‘se’という接語によって相互を表わす場合が取り上げられている。

ここで注意しなければならないのは、先の分類は言語類型論的な分類であって、諸言語において相互を表す時にこれらの方法が全てあるかといえ、そうではないということである。

以上の概観を通じて、本稿では、相互を次のように規定することにする。

相互とは、その動作が2つ以上の関与者によって成し遂げられるものである。相互に関与するものを相互者と呼ぶ。各々の相互者の意向が反映されるかどうかによって、相互を下位分類することができるが、本稿では、各々の相互者が何らかの意志をもって、同じ遂行することを意味するものを典型的な相互と見做す。

更に、以上の相互の規定に付け加えて、本稿では、機能＝意味論的範疇としての相互性を採用し、形態論的に標示するものだけではなく、統辞論や語彙あるいは副詞によって標示するものも相互として取り扱うことにする。

2.3. 現代朝鮮語の相互

現代朝鮮語の相互に関する先行研究を概観することによって、現代朝鮮語において相互がどのように表現されるかを確認することにしよう。(以下、現代朝鮮語の相互に関する先行研究を単に先行研究と略して、議論を進めることにする)。

その先行研究の数はあまり多くない。相互があまり注目されてことなかった理由の1つとしては、現代日本語と同じく、現代朝鮮語においてもそれが形態論的に標示されることが少なく、語彙や統辞論による表現が多いことがあげられるだろう。例えば、現代朝鮮語では、‘만나다(会う), 결혼하다(結婚する), 닮다(似る)’等々を相互を意味する動詞として頻繁に指摘しているし、それらを相互と判断する形態論的標示として格助詞の‘-와/과(と)’を取り扱う場合が多い¹³。

また、先行研究では、例えば고영근・구본관(2008)のように、術語として相互と対称を併用して使用している場合が多いようである。これは‘닮다’を含む文‘A가/이 B와/과 닮다.(AがBと似る。)’と‘만나다’を含む文‘A가/이 B와/과 만나다.(AがBと会う。)’を1つのものとして取り扱おうという意図があるように思える。先に示したように、相互は相互者が同じ動作をおこなうことを意味する。しかしながら、格助詞の‘-와/과’が現われるという点だけで‘닮다’を含む文を相互と見做すことはできない。なぜならば、この文ではAとBが同じ動作をおこなっていることを意味しないからである。‘닮다’を含む文は相互という動的な状況を表すというよりも、対称という静的な状況を表すといったほうが適当である。違う状況であるにも関わらず、形態論的標示として同じ格助詞‘-와/과’が用いられていることを根拠として、同じ機能を表すという意味で適当な名称をあえて割り当てようとして、相互や対称が併用されていると考えることができる¹⁴。

先行研究のなかで本格的に朝鮮語の相互を取り扱った研究としては、江波戸文康(2005)がある。ただし、江波戸文康(2005)では、単語結合¹⁵という観点から現代朝鮮語の格助詞‘-와/과’に接近し、その意味と機能を規定しようとしたものである。それ故、そこでは、格助詞‘-와/과’が‘사과와 귤(みかんとりんご)’のように並列の機能を果たす場合も取り扱っており、その議論の進め方は格助詞‘-와/과’の機能のうちある状況において相互の機能が出現する場合があるというようなものである。本稿の目的は、‘-와/과’の意味と機能を規定しようとするものではなくて、‘-와/과’を伴う名詞を含み、形態論的あるいはそれと異なる方法で表現される相互を記述しようとするものである。本稿はこの点で江波戸文康(2005)とは異なる。

しかしながら、江波戸文康(2005:140-144)では、格助詞‘-와/과’の観点から対称同伴動詞、対称相互動詞、対称比較形容詞、対称関係名詞という述語成分を分類する折に、‘A가/이 B와/과 C를/을~(AがBとCを~する)’と‘A와/과 B가/이 C를/을~(AとBがCを~する)’の統辞論的な置き換え可能性と格助詞‘-와/과’と‘-와/과 함께(と共に)’の置き換え可能性を交差させることで、その分類を見出している点はかなり興味深い考察である¹⁶。と同時に、(1)趙義成(1994)や陳満里子(1996)に続き、現代朝鮮語の格助詞‘-와/과’の研究に単語結合論を導入した点、(2)現代朝鮮語の特殊助詞¹⁷を考察した任明秀(2005)や中期朝鮮語の格助詞を考察した吉澤靖(2006)と相互に影響を与えあったという点で江波戸文康(2005)の功績は少なくないと言えることができる。

江波戸文康(2005)の議論に基づき、現代朝鮮語において相互がどのように表されるかを示すと、次のようになる。

- ① 相互を表す場合、格助詞‘-와/과’を伴う名詞が出現する場合もある。
- ② 文中で格助詞‘-와/과’が使用されなくても、‘-와/과 같이(と一緒に)’や‘-와/과 함께(と共に)’が使用されれば、相互を表す場合がある¹⁸。
- ③ ‘A가/이 B와/과~(AがBと~する)’が‘A와/과 B가/이~(AとBが~する)’と置き換わったり、‘A가/이 B와/과 C를/을~(AがBとCを~する)’が‘A와/과 B가/이 C를/을~(AとBがCを~する)’と置き換わったりし得る相互構文もある。

3. 考察対象と用例について

まず、本稿で考察する対象から言及することにする。本稿で考察する対象は文の中に格助詞‘-와/과’を伴う名詞が現れることを前提とし、(1)ヴォイス接尾辞¹⁹を伴い、相互を表す動詞を含む相互構文、(2)疑似接尾辞²⁰を伴い、相互を表す動詞を含む相互構文、(3)‘第Ⅲ語基+지다’という分析的な形²¹を伴い、相互を表す動詞を含む相互構文、(4)相互を表す接頭辞がついた動詞を含む相互

構文, (5) 語彙的に相互を表す動詞を含む相互構文, (6) 副詞によって相互を表す相互構文である。また, (7) ‘-와/과 같이’ や ‘-와/과 함께’ を含み, 相互を表す構文も本稿での考察対象とする。しかしながら, 以下でも言及することになるが, 格助詞 ‘-와/과’ を伴う名詞が現れない文も相互構文として取り扱う場合がある(これについての詳しい言及は, 以下の 4.2.1 を参照されたい)。本稿では, 先行研究である江波戸文康(2005)の記述だけではなく, 菅野裕臣他編(1991²⁾, 홍재성 편(1997), 연세대학교 언어정보개발연구원 편(1998)の記述にも基づき, 相互を表す動詞を選定することにする。この中でも, 本稿では 연세대학교 언어정보개발연구원 편(1998)の記述に大きく依存している。その理由としては, 연세대학교 언어정보개발연구원 편(1998)において動詞が提示される時, その意味のほかに統辞論的情報までも提示されているからである²²。

次に, 本稿で取り扱う用例について言及することにする。本稿では, 以下の点に留意しながら, 用例を収集している。

- ① 本稿で取り扱う用例は, 21 세기 세종계획によって構築されたコーパスを通じて収集したものである。韓国には, 高麗大学民俗文化研究院電子テキスト研究所によって構築されたコーパスを始めとするいくつかのコーパスがある。この中で特に 21 세기 세종계획によって構築されたコーパスを選択した理由は, 1つ1つの文の出典が明らかにされており, 文中では明示されることが少ない動作の主体や客体を前後の文脈で探すことができる程度の長さの用例を収集できるからである。ただし, このコーパスで例文をどうしても探すことができない場合は, 実際の用例を例文として載せている 연세대학교 언어정보개발연구원 편(1998)のものを提示することにする。
- ② 本稿では, 1)非連体形であり, 2)終止形語尾のうち, II-ㄴ다/I-는다という下称形を含む用例を中心に考察することにする。現代朝鮮語の終止形には, 話し手と聞き手の間の社会的地位や年齢差などを表す終止形語尾が多く存在する。実際の用例を収集し考察すると, 相互形は様々な終止形語尾を伴って現れる場合が多い。この終止形語尾のうち, 下称形を伴う相互形を含む相互構文を中心に収集するのは命題の外側を変え得る状況を排除することによってその真の意味に接近することができるからである²³。しかしながら, 該当する相互形を含む文においてそれぞれの動詞が下称形を伴う例文がまったく見つからない場合はその例文をそのまま使用せず, 終止形語尾を下称形に修正し, 考察することにする(本文において, このような例文を使用する時は, 予め修正したことに言及するが, 終止形語尾を下称形に修正した相互構文が文法的におかしい場合は出現したままに示すこととする)。

- ③ 本稿では, 実際の用例だけでなく, 作例も考察対象とする。というのは, ある相互構文を違う方法で作り変える作業が相互構文を分類する折に重要な役割を果たすと考えるからである²⁴。

4. 用例考察

それでは, それぞれの相互構文を考察していくことにする。

4. 1. ヴォイス接尾辞による相互構文

ここでは, ヴォイス接尾辞を伴わない動詞を含む相互構文とヴォイス接尾辞を伴う動詞を含む相互構文を取り上げることにする。以下の例文は無標形と有標形を含むものである²⁵。

(1) 할머니 댁에 가는 길에 욱심쟁이 초코는 오빠의 목도리를 자기 목도리와 바꾸자고 조른다. (祖母の家に行く途中, 欲張りチョコは兄のマフラーを自分のマフラーとかえようとせがむ。[조선일보사, 조선일보사, 2002]²⁶)

(2) 소설의 구조와 형태 자체가 바뀌고 있다.²⁷ (小説の構造と形態自体がかわりつつある。)[조선일보사, 조선일보사, 2002]

(3) 서연은 봉투에서 그 꽃잎을 쏘아 여자가 준 붉은 꽃과 섞었다. (ソヨンは封筒からその花びらをばらまき, 女がくれた赤い花とまぜた。)[이혜경, 문학과지성사, 2002]

(4) 거기에는 축하와 함께 부러움이 섞여 있다. (そこには祝いと共に羨ましがまじっている。)[김찬호, 문학과지성사, 2001]

(5) 창선 마을에서 나는 아이들과 섞여 물수제비를 떴다. (찬선촌에서 나는 아이들과 섞여 물수제비를 떴다。)[곽재구, 한양출판사, 1993]

(6) 비즈니스맨이 상대와 호흡을 맞춘다.²⁷ (비즈니스맨이 상대와 호흡을 맞춘다。)[김양호, 영언문화사, 2001]

(1), (3), (6)は他動詞文であり, (2), (4), (5)は自動詞文である²⁸。しかしながら, これらの例文は格助詞‘-와/과’を伴う名詞が現れているものの, これらの例文の中で本稿が規定した相互に一致する例文は(5)と(6)だけである。例えば, (1)はチョコが他人のマフラーと自分のマフラーをかえることを表しているが, かえるという動作をおこなう関与者が2つでないばかりか, チョコと他人のマフラーが同じ動作をおこなうことは現実的に不可能である。このようなことは例文(3)にも当てはまる。例文(2)と(4)では, 形態や羨ましが意志をもって, その動作を遂行することは考えにくい。つまり, 本稿の規定に従えば, これらの例文はその文中に格助詞‘-와/과’が現れているが, 相互を表していない以上, それぞれの動詞を相互形と認めることはできないということになる。

一方, 例文(5)と(6)は本稿で規定する相互と一致する。つまり, (5)や(6)において私と子どもたち, あるいはビジネスマンと相手が意志をもって同じ動作を遂行するという相互が成立しているということである。

では, 例文(1), (2), (3), (4)と例文(5)の違いはどこにあるのだろうか。本稿では, それらの違いが存在論的に卓立性の高い相互者が同じく卓立性の高い相互者と共にそれらの意志によってその動作を遂行するかどうかに依るものだと考える(ここで, 有情名詞や無情名詞という術語を使わない理由としては, 名詞クラスとしての有情名詞, 無情名詞と存在論的卓立性の高いもの, 低いものを厳密に区別したいからである。有情名詞が存在論的卓立性の高いもの, 無情名詞が存在論的卓立性の低いものと単純に考えることはできないようにも思える。これについては今後の課題としたい)²⁹。例文(5)において, 動作の主体である‘나’が同じ動作をおこなう‘아이들’と存在論的卓立性が高いか低いかという観点では同等であるということが出来る。また, 同じ動作をおこなう‘아이들’は格助詞‘-와/과’を伴っている。一方, 例文(2)では, ‘형태 자체’と‘소설의 구조’が存在論的卓立性の観点では同等であるが, それらの意志によって動作を遂行していないので, 相互とは言えない。例文(3)も例文(5)と同じ状況が見受けられないし, 例文(4)は例文(2)と同じ解釈から相互と見做すことが出来ない。これを整理すると, 以下の表のようになる。

	動作の主体 (A)	‘-와/과’を伴う名詞(B)	どちらの存在論的卓立性が高いか	AとBが意志をもって動作を遂行しているか	相互か非相互か
(1)	초코	목도리	초코 > 목도리	している	非相互
(2)	형태	구조	형태 = 구조	していない	非相互
(3)	서연	꽃	서연 > 꽃	していない	非相互
(4)	부러움	축하	부러움 = 축하	していない	非相互
(5)	나	아이들	나 = 아이들	している	相互
(6)	비즈니스맨	상대	비즈니스맨 = 상대	している	相互

表 1. 例文(1)-(6)の考察

このほかにも格助詞‘-와/과’を伴う無標形や有標形には以下のものがあるが, これらの動詞のうち, ‘뒤섞이다(入り乱れる)’, ‘어울리다(付き合う)’, ‘부딪치다(ぶつける)’を除いて他の動詞は, 本稿が規定する相互を表さない³⁰。つまりは, 収集した用例(これらの動詞を含む文)の中に, 本稿が規定する相互を表すものがなかったということである。以下でも, 本稿が規定する相互を表さない, あるいは一致しないという表現は収集した用例の中で, 本稿が規定する相互を表すものがなかったという意味で使用している。

<<格助詞 ‘-와/과’ を伴い, 相互を表す動詞>>

(自動詞)

뒤섞이다:[반전단체들(反戰団体)], [환영의 인파(歡迎の人波)]³¹

어울리다:[모든 스님들(全ての僧侶)], [지역 주민들(地域住民)]

(他動詞)

부딪치다:[많은 사람(多くの人)], [잔(杯)], [그녀(彼女)]

<<格助詞 ‘-와/과’ を伴うが, 相互を表さない動詞>>

(自動詞)

맞다(合う):[뒤(後)], [앞(前)]

붙다(つく):[수련(スイレン)], [물(水)]

(他動詞)

뒤섞다(かき混ぜる):[그(彼)], [자신의 속옷 빨래(自分の下着の洗い物)],
[다른 빨래(他の洗い物)]

붙이다(つける):[대학(大學)], [영문초록(英文抄録)], [국문초록(國文抄
録)]

4. 2. 疑似接尾辭による相互構文

ここでは, ‘基本語幹+하다’, ‘基本語幹+되다’, ‘基本語幹+시키다’ という構成で表されている動詞を含む相互構文を考察することにする³². ただし, 同じ基本語幹を持ちながらも, これら全ての構成を持つ動詞もあれば, どれか1つの構成しか持たない動詞も存在する. 実際には, (1) ‘+하다’ しか存在しない場合, (2) ‘+되다’ しか存在しない場合, (3) ‘+시키다’ しか存在しない場合, (4) ‘+하다’, ‘+되다’ が存在する場合, (5) ‘+하다’, ‘+시키다’ が存在する場合, (6) ‘+되다’, ‘+시키다’ が存在する場合, (7) ‘+하다’, ‘+되다’, ‘+시키다’ が存在する場合がある. ここでは, この順序にそって, それぞれの例文を考察することにする.

4. 2. 1. ‘+하다’ しか存在しない場合

以下はこれに該当する例文である.

(7) 자음과 모음이 결합하여 하나의 음을 낳는 것은 영문자와 한글이 동일하다.(子音と母音が結合し, 1つの音を生むのはローマ字とハングルが同一だ。)연, p. 538

(8) 이 두 개체는 유전적으로 동일하다.(この2つの個体は遺傳的に同一だ。)[김훈기, 궁리출판, 2004]

(9) 찾아온 민우는 병약하다고 부모님이 반대하는데도 불구하고 오랫동안

사귀었던 여자친구와 결혼한다고 했다.(訪ねてきたミヌは病弱だと両親が反対するにも関わらず, 長い間付き合っていたガールフレンドと結婚すると言った。)[조선일보사, 조선일보사, 2002]

(10) 두 사람은 사랑에 빠졌고 양측 부모의 반대를 무릅쓰고 결혼했다.(2人は恋に落ち, 両家の両親の反対を顧みず, 結婚した。)[동아일보사, 동아일보사, 2003]

(11) 디펜딩 챔피언 AC 밀란(이탈리아)은 스파르타 프라하(체코)와 대결한다.(ディフェンディングチャンピオンACミラン(イタリア)はスパルタプラハ(チェコ)と対決する。)[조선일보사, 조선일보사, 2003]

(12) 그 두 세력이 아시아에서 대결한다.²⁷(その2つの勢力がアジアで対決する。)[연, p. 468]

(13) 그 다음 단계로 지금 우리가 맞고 있는 정보화와 세계화의 물결이 공존하고 있다.(その次の段階として我々が直面している情報化と世界化の波が共存している。)[김찬호, 문학과지성사, 2001]

(14) 이 두 가치는 공존할 수 없다.(この2つの価値は共存することができない。)[고부응, 민족과 지성사, 2002]

(15) 최씨가 홍걸씨와 범죄를 공모한다.²⁷(チェ氏がホンゴル氏と犯罪を共謀する。)[동아일보사, 동아일보사, 2002]

(16) 매표원 10 명이 위조 입장권 제조를 공모한다.²⁷(切符売り 10 名が偽造入場券製造を共謀する。)[동아일보사, 동아일보사, 2003]

例文(7), (8)は形容詞文であり, 例文(9), (10), (11), (12), (13), (14)は自動詞文, 例文(15), (16)は他動詞文である。

まず, 例文(7), (8)では, 格助詞 ‘-와/과’ を伴う名詞があるものの, 形容詞文であるが故に, 何かが意志をもって, 動作を遂行する状況が想像できない。それ故, これの例文は本稿で規定した相互を表さない。

また, 例文(9)では, 存在論的卓立性の高い2つの相互者が意志をもって, 同じ動作を遂行していることを表している。また, 例文(10)では, 格助詞 ‘-와/과’ を伴う名詞が現れていないものの, 存在論的卓立性の高い複数の相互者がやはり意志をもって, 同じ動作を遂行している(3節で格助詞 ‘-와/과’ を伴う名詞が現れることを相互構文を考察する折の前提としたが, 江波戸文康(2005:145)にも提示されているように, 格助詞 ‘-와/과’ を伴う名詞が存在しないものの, 存在論的卓立性の高いもの同士が集まって, 何らかの意志をもって, ある動作を遂行することも相互と判断することができるので, 本稿では, このような用例も相互構文と見做し, 議論を進めることにする)。それ故, 例文(9)と(10)は相互を表すと認めることができる。例文(11)は例文(9)と, 例文(12)は例文(10)とよく似た文である。それらの相違点は, 相互者に含まれる構成員の数にある。

例文(11), (12)は複数の相互者が別々に分かれて現れているか, 一緒に現れているかにおいて相違点があるだけで, 存在論的卓立性の高い複数からなる相互者同士が意志をもって, 動作を遂行していることを表している。一方, 例文(13), (14)では, 存在論的卓立性がそれほど高くないもの同士の状態を表している。これらの状況では, 何かが意志をもって, 同じ動作を遂行しているとは想像し得ない。それ故, これらの例文は本稿で規定する相互を表していない。

最後に, 例文(15)と(16)どちらでも, 2つの存在論的卓立性の高い相互者あるいは複数からなる存在論的卓立性の高いものが何らかの意志をもって同じ動作を遂行しているので, 本稿で規定する相互を表す(例文(16)では, 格助詞 ‘-와/과’ を伴う名詞が現れていないが, 本稿では, 例文(10)と同じ解釈で相互と見做すことにする)。

その他のものには以下の動詞がある。

<<相互を表す動詞>>

(自動詞)

- 경쟁하다(競争する):[그들(彼ら)], [남(他人)]
- 담소하다(談笑する):[그(彼)], [자식(子供たち)]
- 대면하다(対面する):[우리(私達)]
- 동거하다(同居する):[장남(長男)], [부모(両親)]
- 동승하다(同乗する):[회사 직원(会社の職員)], [여러분(皆さん)]
- 동행하다(同行する):[여성(女性)], [남성 직원(男性職員)]
- 상면하다(対面する):[우리 모두(私達すべて)]
- 상충하다(相容れない):[고구려, 백제, 신라(高句麗, 百濟, 新羅)]
- 연대하다(連帯する):[세계 350 여 NGO 들(世界 350 余りの NGO)]
- 접선하다(接触する):[대학생 하나(大学生ひとり)], [이규섭(イギョソプ)]
- 키스하다(キスする):[두 사람(二人)]
- 타협하다(妥協する):[경영자측(経営者側)], [노조(労働組合)]
- 통화하다(電話で話する):[나(私)], [민자(ミンジャ)]
- 합석하다(席を共にする):[그(彼)], [젊은 광부(若い鉱夫)]
- 합의하다(合意する):[그(彼)], [구단(球団)]
- 협력하다(協力する):[서로(お互い)]

(他動詞)

- 거래하다(取引する):[그들(彼ら)], [물건(もの)], [누구(誰か)]
- 공연하다(共演する):[그들(彼ら)], [악기(楽器)]
- 상의하다(相談する):[그들(彼ら)], [무엇인가(何か)]
- 연락하다(連絡する):[민자(ミンジャ)], [너(お前)]
- 토론하다(討論する):[기욱(キウク)], [문제(問題)], [나(私)]

협상하다(協商する):[그들(彼ら)], [현안 사항(懸案事項)]

次のものも相互を表す動詞である。

【自動詞】 결별하다(決別する), 교제하다(交際する), 관계하다(關係する), 대국하다(対局する), 대담하다(対談する), 대좌하다(対座する), 대화하다(對話する), 동고동락하다(苦樂を共にする), 동석하다(同席する), 동숙하다(同宿する), 동업하다(共同經營する), 동침하다(同衾する), 부동하다(仲間になる), 상봉하다(出会う), 연애하다(恋愛する), 연합하다(連合する), 이혼하다(離婚する), 접하다(接する), 합당하다(党が合わさる), 합동하다(合同する), 합세하다(力を合わせる), 합숙하다(合宿する), 합심하다(心を合わせる), 합자하다(多くの人が資本を出し合う), 합작하다(合作する), 협조하다(協調する), 혼인하다(婚姻する), 환담하다(歡談する), 【他動詞】 상담하다(相談する), 상대하다(相手にする), 상중하다(付き合う), 이야기하다(話す), 의논하다(相談する), 접견하다(接見する), 합승하다(相乗りする), 합의하다(合議する), 협의하다(協議する)

ただし, 以下のものは形容詞であり, それ故, 相互を表さないものである。

(形容詞)

대등하다(対等だ):[여자(女)], [남자(男)]
동등하다(同等だ):[노예(奴隸)], [주인(主人)]
상응하다(照応する):[내용(内容)], [현실(現実)]
상이하다(相違する):[문제들(諸問題)]
친하다(親しい):[강차장님(カン次長)], [저(私)]

次のものは自動詞や他動詞であるが, 本稿で規定した相互を表さないものである。

(自動詞)

사별하다(死別する):[그(彼)], [아내(妻)]
상접하다(互にくっつく):[문제(問題)], [기본 문제(基本問題)]
인접하다(隣接する):[가족이나 주인(家族や住人)]
접경하다(隣接する):[남양(南陽)], [두 성(2つの城)]
통하다(通ずる):[말(言葉)], [나(私)]
합하다(合わさる):[동력(動力)], [기계(機械)]

(他動詞)

합하다(合わせる):[흥규(ホンギョ)], [두개의 판단(2つの判断)]

4. 2. 2. ‘+되다’ しか存在しない場合

以下はこれに該当する例文である。

(17)상업주의와 대중 문학은 분간되어야 한다.(商業主義と大衆文学は見分けがつかなければならない。)연, p. 905

(18)이 두 낱말이 흔히 혼용되고 있기는 하나 결코 혼용되어서는 안 된다.(この2つの単語がよく混用されているにはいるが、決して混用されてはいけない。)연, p. 2065

(19)아체는 독립적인 기반을 잡지 못해 1951 년 인도네시아에 강제 합병되었다.(アチェは独立した基盤を手に入れることができず、インドネシアに強制併合された。)[중앙일보 J&P, 중앙일보 J&P, 2000]

(20)인간이 파리와 합성된다.²⁷(人間がハエと合成される。)연, p. 2016

例文(17)は自動詞文であるが、例文(18), (19), (20)は受動文である³³。例文(17), (18)では、存在論的卓立性の高いものがその意志をもってその動作を遂行していることを意味しているわけでもなく、また不特定多数の人たちによって動作を被る、つまりその動作には意志が介在していないことを意味している。これは本稿で規定する相互とは一致しない。しかしながら、例文(19)では、インドネシアの力によって複数からなる存在論的卓立性の高いアチェが同じく複数からなる存在論的卓立性の高いインドネシアと合わさるようになったことを表し、(20)では、他の力によって存在論的卓立性の高い人間が人間ほどではないが、存在論的卓立性の高いハエと合成するようになったことを表している。これらの例は自分達の意志で同じ動作を遂行するという典型的な相互を表していないが、第三者が介在して、2つの関与者が同じ動作を遂行するようにされているという点で相互に近いものと認めることができる。本稿では、これも相互と見做すことにする(一見すると、これは本稿が規定する相互を表していないように思えるが、現代朝鮮語の相互を意味論的に分類する折、重要な証拠を示す例文となるため、ここでは一旦相互と見做し、議論を進めることにする)。

以下の動詞は本稿で規定する相互には該当しない。

<<相互を表さない動詞>>

(自動詞)

상치되다(かち合う):[창의력(創造力)], [획일성(画一性)]

연속되다(連続する):[들(野)], [하늘(空)]

유리되다(遊離する):[학문(学問)], [현실(現実)]

접속되다(接続する):[선(線)], [선(線)]

4. 2. 3. ‘+시키다’ しか存在しない場合

これに該当する動詞は1つしかない。以下はその例文である。

(21)선생님이 아이들을 서로 인사시켜 주기만 하면, 이내 친해지는 것이었다.(先生が子供たちを互いに挨拶させてあげさえすれば, すぐに親しくなるのだった。)연, p. 1483

例文(21)は使役文である³³。例文(21)は格助詞 ‘-와/과’ が現れていないものの, 先生の指示によって, 複数からなる存在論的卓立性が高い子供達がお互いに挨拶するように仕向けられていることを表している。これは本稿が規定する相互に一致する。また, 同じ動作をおこなう相互者が格助詞 ‘-를/을’ を伴っている点で, 興味深い例文である(一見すると, この例文も本稿が規定する相互を表していないように思えるが, 現代朝鮮語の相互を意味論的に分類する折, 重要な証拠を示す例文となるため, ここでは一旦相互と見做し, 議論を進めることにする)。

4. 2. 4. ‘+하다’, ‘+되다’ が存在する場合

以下はこれに該当する例文である。

(22)어사 앞에서 취하는 행동 하나하나도 억균이 그려온 이미지와는 부합하지 않았다.(御史の前でとる行動1つ1つもオッキョンが描いてきたイメージとは符合しなかった。)[김영하, 문학과지성사, 2001]

(23)이같은 생각은 르네상스 동안에 점차로 생기기 시작한 학문적, 사상적인 요구와도 부합되는 것이었다.(このような考えはルネッサンスの間に少しずつ生まれ始めた学問的、思想的な要求とも符合するのだった。)[김영식, 민음사, 1984]

(24)당시 군·검 합동수사본부 수사에 참여했던 군검찰 관계자들이 충돌하고 있다.(当時, 軍檢合同搜查本部搜查に参加していた軍檢察關係者が衝突している。)[중앙일보사, 중앙일보사, 2002]

(25)사회 정의와 개인의 자유는 서로 충돌된다.²⁷(社会定義と個人の自由は互いに衝突し合う。)연, p. 1845

(26)사람들이 결핍하면 독일과 우리 나라를 비교한다.²⁷(人々がともするとドイツと韓国を比較する。)연, p. 932

(27)드라마틱하고 서정적인 음악은 엔리오 모리코네와 비교된다.(ドラマチックで叙情的な音楽はエンニオ＝モリコーネと比較される。)[조선일보사,

조선일보사, 2002]

例文(22)-(27)のうち, 全ての例文には格助詞 ‘-와/과’ が現れているが, 本稿が規定する相互を表しているのは, 例文(24)と(25)だけである。例文(24)は存在論的卓立性の高いものが相互者として出現している。一方, 例文(25)は存在論的卓立性の低いものが相互者として出現しているのにも関わらず, 本稿では, これを相互と認定する。その理由としては, 副詞 ‘서로(互いに)’ がその文に現れていることがあげられる。後でも考察することになるが, 副詞 ‘서로’ が文に存在するかどうか現代朝鮮語の相互構文の成立に重要な役割を果たしていると考えることができる。ここでは, 例文(25)において副詞 ‘서로’ があるので, この文が相互構文であると一旦結論づけることにする。

以下の動詞のうち, 本稿で規定する相互と一致するものもあれば, 本稿で規定する相互とは一致しないものもある。

<<相互を表す動詞>>

(自動詞)

상반하다(相反する):[무산계급(無産階級)], [유산계급(有産階級)]

상반되다(相反する):[서로(お互い)]

상통하다(相通ずる):[서로(お互い)]

상통되다(相通ずる):[김 씨(キム氏)], [정 씨(チョン氏)]

(他動詞)

교환하다(交換する):[그들(彼ら)], [서로간의 정보(互いの間の情報)]

(受身形)

교환되다(交換される):[한 여성의 사랑(ある女性の愛)], [한 남성의 사랑(ある男性の愛)](これは副詞 ‘서로’ を含む文である。)

<<相互を表さない動詞>>

(自動詞)

상관하다(関わる):[노인(老人)], [나의 의사따위(私の意思など)]

상관되다(関係する):[객관적 진리(客観的真理)], [내용(内容)]

합일하다(合一する):[행동(行動)], [말하는 것(話すこと)]

합일되다(合一する):[우리(我々)], [전 우주(全宇宙)]

(他動詞)

구분하다(区分する):[인간(人間)], [개념(概念)], [사물(事物)]

대체하다(取り替える):[많은 과학자들(多くの科学者)], [석유(石油)], [새로운 연료(新しい燃料)]

동일시하다(同一視する):[대학행정가들(大学行政家たち)], [자신(自分)],

[그들의 직위 (彼らの職位)]

혼동하다(混同する):[나(私)], [용기(勇氣)], [만용(蠻勇)]
(受身形)

구분되다(区分される):[미래(未來)], [과거(過去)]

대체되다(取り替えられる):[결단력(決断力)], [우유부단(優柔不斷)]

동일시되다(同一視される):[시간(時間)], [수(數)]

혼동되다(混同される):[지각심리학(知覚心理学)], [현상학적 접근(現象学的
接近)]

4. 2. 5. ‘+하다’, ‘+시키다’가存在する場合

これに該当する基本語幹は1つしかない。

(28) 유대인 지식인들이 농민들과 합류했기 때문이다.(ユダヤ人の知識人たちが農民たちと合流したからだ。)[한겨레신문사, 한겨레신문사, 2001]

(29) 그는 진보회를 일진회와 합류시켰다.²⁷(彼は進歩会と一進会を合流させた。)연, p. 2015

例文(28)は自動詞文, 例文(29)は使役文である。例文(28)は同じ存在論的卓立性をもった複数からなる関与者が同じ動作をおこなう相互を表すのに対して, 例文(29)は第三者が介在して, 高い存在論的卓立性を持つ複数の関与者が同じ動作をするように仕向けられている(一見すると, この例文も本稿が規定する相互を表していないように思えるが, 現代朝鮮語の相互を意味論的に分類する折, 重要な証拠を示す例文となるため, ここでは一旦相互と見做し, 議論を進めることにする)。

4. 2. 6. ‘+되다’, ‘+시키다’가存在する場合

これに該当する基本語幹は1つしかない。

(30) 어떤 문제가 개혁추진위 활동의 성격과 관련된다.²⁷(ある問題が改革推進委活動の性格と関連する。)[동아일보사, 동아일보사, 1999]

(31) 어떤 사람이 예술성을 종교적 신심과 관련시킨다.²⁷(ある人が芸術性を宗教的信心と関連させる。)연, p. 173

例文(30)は自動詞文, 例文(31)は使役文である。例文(30)も, 例文(31)も格助詞 ‘-와/과’ が出現しているが, それらが相互者となり, 何らかの意志をもって, 動作を遂行するという相互を表していない。

4. 2. 7. ‘+하다’, ‘+되다’, ‘+시키다’ が存在する場合

以下はこれに該当する例文である。

(32) 자유 중국 정부는 본토의 중국 정부와 대립하고 있다.(自由中国政府は本土の中国政府と対立している。)연, p. 474

(33) 고전주의 시대와는 판이하게 과학과 예술은 서로 완전히 대립되는 것이다.(古典主義時代とは全く異なり, 科学と芸術は互いに完全に対立し合っているのだ。)[이상섭, 서문당, 1972]

(34) 칸트는 이성과 의지의 세계를 대립시켜 놓고 판단력 비판에서 그 둘 사이의 관계를 분석하였다.(칸트는 理性と意志の世界を対立させておき, 判断力の批判からその2つの間の関係を分析した。)연, p. 474

(35) 형사가 그를 유괴 사건과 결부한다.²⁷(刑事が彼を誘拐事件と結びつける。)연, p. 103

(36) 그들의 과학은 기술과 결부가 되었고 그들은 기술적 지식에 대해서도 연구했다는 것이다.(彼らの科学は技術と結びついており, 彼らは技術的知識についても研究したということだ。)[김영식, 민음사, 1984]

(37) 셰익스피어는 옷과 인품을 결부시킨다.²⁷(シェイクスピアは服と品位を結び付ける。)연, p. 103

例文(32), (33), (35), (36)は自動詞文であり, 例文(34), (38)は他動詞文である。例文(32), (33)は複数からなる存在論的卓立性が高い相互者同士が何らかの意志をもって同じ動作を遂行したり, 存在論的卓立性が低い相互者同士であっても, 副詞‘서로’が入ることにより, 何らかの意志をもって同じ動作を遂行する相互を表したりするようになるのに対して, 他の例はそれを表すことができない。特に興味深いのは, 例文(34)であり, これは例文(32)や(33)と基本語幹が同じであっても, 擬似接尾辞の種類によって相互を表さない場合があることを示している。

その他の例として, 以下のものが相互を表す。

<<相互を表す動詞>>

(自動詞)

연계되다(つながる):[이들(この人々)], [학생들(学生達)]

접촉하다(接触する):[아버지(父)], [아이(子供)]

(他動詞)

연결시키다(つなげる):[운동(運動)], [사회 사업 단체(社会事業団体)], [민중(民衆)]

上の ‘연결시키다’ も例文(19), (20)と同じく, 運動という第三者の力によって, 複数からなる存在論的卓立性が高い社会事業団体とやはり複数からなる存在論的卓立性が高い民衆が意志をもってつながると同じ動作をおこなっているのので, 本稿では相互と見做しているのである。また, ‘연계하다(つなげる), 연계시키다(つなげさせる), 접촉되다(接触する), 접촉시키다(接触させる), 연결하다(つなげる), 연결되다(つながる)’ は先に示した動詞と同じ基本語幹を持っていても, 本稿が規定する相互を表していない。更に, ‘결합(結合), 대응(対応), 대치(対峙), 대비(対比), 대조(対照), 대치(代置), 분리(分離), 연관(連関), 직결(直結)’ という基本語幹は擬似接尾辞 ‘-하다, -되다, -시키다’ を伴い得るが, 本稿の考察によって, それらを伴った動詞が相互を表していないことが確認されている。

4. 3. 分析的な形による相互構文

これに該当するのは, 格助詞 ‘-와/과’ を伴う名詞を含む形容詞文を構築する形容詞の第Ⅲ語基に ‘-지다’ がついた自動詞である。以下がその例文である。

(38) 한국의 껌팔이 소년은 월남에서 낙타누갈을 팔던 소년들의 영상과 겹쳐진다. (韓國のガム売り少年はヴェトナムでラクダの目ん玉を売っていた少年たちの映像と重なる。)[김태환, 문학과지성사, 2001]

(39) 미국을 보는 젊은 세대의 시각이 예전과 달라졌다. (アメリカを見る若い世代の視覚が以前と変わった。)[중앙일보 J&P, 중앙일보 J&P, 2000]

(40) 노인의 행동이 어린이와 같아진다.²⁷ (老人の行動が子供と同じになる。) 연, pp. 54-55

例文(38), (39), (40)はどれも自動詞文である。それらの例文はそれぞれ格助詞 ‘-와/과’ を伴う名詞が出現しているものの, 意味論的に少年の映像や以前, そして子供と共に, 動作の主体であるガム売り少年や視覚, そして老人の行動が同じ動作をおこなう相互者とはなり得ず, 2つの相互者が意志をもって同じ動作を遂行する相互を表すことができない。それ故, 本稿で考察した用例の中には, 分析的な形による相互構文は存在しないということになる。

4. 4. 接頭辞による相互構文

ここでは, 接頭辞 ‘맞-’ がついた動詞を考察することにする。以下がその例文である。

(41) 이런저런 관행들이 지금의 이 심각한 위기들과 밀접하게 맞물려 있기 때문이다. (あれこれの慣行が今のこの深刻な危機と密接にかみ合わさっている

からだ。)[김찬호, 문학과지성사, 2001]

(42) 완준은 마당을 쓸다가 애경과 맞닥뜨린다.(ワンジュンは庭を掃いていて, エギョンと出会った。)연, p. 670

(43) 오늘 중국 베이징에서 남북의 대표가 얼굴을 맞댄다.(今日, 中国の北京で南北の代表が顔を付き合わせる。)[한겨레신문사, 한겨레신문사, 1999]

(44) 그녀는 남편과 손을 맞잡는다.²⁷(彼女は夫と手を握り合う。)[좋은생각, 좋은생각, 2000]

(45) 두어 사람이 천 원짜리 돈과 약병을 맞바꾼다.²⁷(二人ほどが千ウォンのお金と薬瓶を交換する。)연, p. 671

例(41), (42)だけが自動詞文であり, 残りの例文(43), (44), (45)は他動詞文である。例文(42), (43), (44)は存在論的卓立性が高い2つの相互者が何らかの意志をもって, 同じ動作を遂行する相互を表し, 例(41), (45)はそのような意味を表さない(ただし, 例文(42)は偶然出くわすという意味が多分に含まれるために, 本稿で規定する相互を表しているとは言い難いかもしれない。ここでは, 存在論的卓立性の高い関与者同士が同じ動作を遂行するという点で一旦相互と見做し, 議論を進めることにする)。興味深いのは, 例(43)と(44)における格助詞‘-를/을’を伴う名詞と他の名詞の関係が不可譲渡の関係にあるということである³⁴。例(43)と(44)における顔も手もどちらかの相互者の所有物ではなく, どちらも両方の相互者の所有物である。

その他に以下の動詞も相互を表す。

(自動詞)

맞닿다(触れ合う):[내 어깨(私の肩)], [그의 어깨(彼の肩)]

맞받다(迎え撃つ):[짱패(ちんぴら)], [그(彼)]

맞보다(向き合う):[두 사람(二人)]

맞부딪다(ぶつかり合う):[두 사람(二人)]

맞부딪치다(ぶつかり合う):[나(私)], [경찰(警察)]

맞붙다(相対する):[이천수(イチョンス)], [리웅(リオン)]

맞서다(対決する):[두 팀(両チーム)]

(他動詞)

맞들다(互いに持ち合う):[나(私)], [냉장고(冷蔵庫)], [영수(ヨンス)]

맞바라보다(向かい合って見る):[오빠(兄)], [엄마(母)]

맞비비다(擦り合う):[김(金)], [두 손(両手)]

しかしながら, 以下の動詞は相互を表さない。

(自動詞)

맞먹다(匹敵する):[삼림 면적(森林面積)], [영국의 국토 면적(イギリスの国土面積)]

맞닿리다(向かい合って通じる):[광장(広場)], [개인의 밀실(個人の密室)]

맞물다(かみ合う):[톱니(ノコギリの歯)], [나사(ネジ)]

(他動詞)

맞붙이다(くっつける):[그(彼)], [술잔(杯)]

4. 5. 語彙による相互構文

以下は語彙そのものが相互を表す例である。

(46) 부모 유산을 놓고서 형제들이 다투는 것이었습니다。(兩親の遺産について兄弟が言い争っているのですでした。)[북거일, 문학과지성사, 2001]

(47) 나는 그들과 만나면서 나 자신이 걸어온 길을 돌아켜보았다。(私は彼らと会うと同時に, 私自身が歩いてきた道を振り返ってみた。)연, p. 654

(48) 한국은 북한과 비긴다.²⁷(韓国は北朝鮮と引き分ける。)연, p. 932

(49) 아이들이 싸운다.²⁷(子供たちがケンカする。)연, p. 1190

(50) 경기장 주변에는 1 만여명의 ‘붉은 악마’와 관중이 한데 어우러져 북소리에 맞춰 ‘오 코리아’를 소리 높여 외쳤다。(競技場の周辺には1万人の‘赤い悪魔’と観衆が1つになって, 太鼓の音に合わせて, ‘オー 코리아’を声高に叫んだ。)[동아일보사, 동아일보사, 2002]

(51) 건널목 앞에서 그녀와 나는 헤어진다.(踏み切りの前で彼女と私は別れる。)[문혜원, 문학사상사, 2003]

(52) 한 부족 국가가 다른 부족 국가와 합친다.²⁷(ある部族国家が他の部族子国家と合わさる。)연, p. 2018

(53) 남북 외무장관은 따로 만나지는 않았지만 반갑게 악수를 나눴다.(南北外務長官は別途に会いしなかったが, 感激して握手を交えた。)[중앙일보사, 중앙일보사, 2002]

(54) 진나라와 조나라가 서로 돕기로 조약을 맺었습니다.(秦と趙が互いに助けることとして条約を結びました。)[김교빈, 이현구, 동녘, 1993]

特に, 例文(54)と(55)で使用されている‘나누다(交える)’と‘맺다(結ぶ)’はそれ自身に相互の意味があるのではなく, 格助詞‘를/을’を伴う名詞と一緒にになって, 相互を表している。また, これらの例における‘-를/을 나누다’や‘-를/을 맺다’のような構成で相互を表すものには, ‘이야기를 나누다(話を交える), 대화를 나누다(対話を交える), 음식을 나누다(食べ物に分ける), 관계를 맺다(関係を結ぶ), 협정을 맺다(協定を結ぶ), 제휴를 맺다(提携を結ぶ)’

ぶ)’等々がある。更に、他の動詞を使う例としては、‘손(을)잡다(力を合わせる)’もある。

また、以下のものは格助詞 ‘-와/과’ を伴う名詞が出現するものの、本稿が規定する相互を表さない。

(自動詞)

닮다(似る):[아이들(子供たち)], [할아버지(祖父)]

닿다(触れる):[핏줄(血筋)], [그(彼)]

동떨어지다(かけ離れる):[우리 집(私の家)], [복잡한 도시(混雑した都市)]

씨름하다(格闘する):[근로자(勤労者)], [기계(機械)]

어긋나다(ずれる):[그런 태도(そのような態度)], [외교 원칙(外交原則)]

엉키다(絡む):[고구마(サツマイモ)], [흙덩이(土の塊)]

(他動詞)

견주다(比べる):[부모들(両親たち)], [자기 자식(自分の子供)], [다른 집 자식들(他の家の子供たち)]

포개다(重ねる):[사람(人)], [책(本)]

4.6. 副詞による相互構文

ここでは、副詞 ‘마주(向き合って), 서로(互いに), 같이(一緒に), 함께(一緒に)’ が文中に現れて、相互を表す文を考察することにする。

まず、副詞 ‘마주’ が文中に現れる例文から考察することにする。以下の例文がそれに該当する。

(55) 두 사람은 바둑판을 가운데 두고 마주앉았다.(二人は碁盤を真ん中に置き、対座した。)연, p. 647

(56) 그런데 2 개월 후에 나는 그 선배의 영업소에서 그와 마주쳤다.(ところで、2ヶ月後に私はその先輩の営業所で彼と出くわした。)[박낙원, (주)북 21, 2002]

(57) 민하와 승하가 서로를 마주보며 난감한 표정을 해 보였다.(미나とスンハが互いを見て、困り果てた表情をしてみせた。)연, p. 647

例文(55), (56)は自動詞文, (57)は他動詞文である。これらの例文では、2つの相互者が同じ動作をおこなっていることを表している(ただし、例文(56)は先の例文(42)と同じように、偶然出くわすという意味が多分に含まれるために、本稿で規定する相互を表しているとは言い難いかもしれない。ここでは、存在論的卓立性の高い関与者同士が同じ動作を遂行するという点で一旦相互と見做し、議論を進めることにする)。また、興味深いのは副詞 ‘마주’ が分ち書きさ

れることなく, まるで接頭辞のように動詞についている点である。

その他の動詞には以下のものがあり, これらの動詞も相互を表している。

(自動詞)

마주서다(向き合って立つ):[수진(スジン)], [어떤 처녀(ある娘)]

(他動詞)

마주잡다(取り合う):[그 둘(その二人)], [손(手)]

마주하다(向き合う):[의사(医者)], [얼굴(顔)], [여인(女性)]

次に, ‘서로, 같이, 함께’ が文中に現れた例文を示す。これらの副詞が文中に存在し, かつ存在論的卓立性の高い関与者が 2 つ以上存在すれば, その文は相互者が何らかの意志をもって同じ動作を遂行する相互を表すことになる。

(58)도미는 눈부시게 아름다웠고 찌꾸와 도미는 서로 열렬히 사랑하고 있었습니다。(トミはまばゆいばかりに美しく, チクとトミは互いに熱烈に愛し合っていました。)[곽재구, 국민서관, 1992]

(59)아버지는 바로 당신의 사랑하는 제자들 곁에 항상 같이 있었던 것이다。(父はまさにあなたの愛する弟子たちのそばにいつも一緒にいたのだ。)[좋은생각, 좋은생각, 1999]

(60)상당수의 영국 축구 팬들은 한국도 함께 방문했다.²⁷(かなりの数のイギリスサッカーファンは韓国も一緒に訪問した。)[조선일보사, 조선일보사, 2002]

また, 先に示したように, 存在論的卓立性が低い関与者による動作でも, 文中に副詞 ‘서로’ が存在すれば, その文は本稿が規定する相互を表す³⁵。既に提示した例であるが, 以下にその例をまた示すことにする。

(25)사회 정의와 개인의 자유는 서로 충돌된다.²⁷(社会定義と個人の自由は互いに衝突し合う。)연, p. 1845

(33)고전주의 시대와는 판이하게 과학과 예술은 서로 완전히 대립되는 것이다。(古典主義時代とは全く異なり, 科学と芸術は互いに完全に対立し合っているのだ。)[이상섭, 서문당, 1972]

更に, これらの副詞のうち ‘서로’ は名詞としても用いられることがあり, 以下の例文のようにこれが名詞として文に出現しても, 相互を表す。

(61)누가 봐도 그들은 서로에게 깊이 빠져 있었다。(誰が見ても, 彼らは互いに深くおぼれていた。)[김지혜, 영언문화사, 2001]

(62) 모두들 따스한 눈으로 서로를 바라볼 수 있었으면 좋겠습니다.(みんな温かい目で互いを眺めることができれば, よいです。)[좋은생각, 좋은생각, 1999]

4. 7. ‘-와/과 같이’, ‘-와/과 함께’ 等を含む相互構文

ここでは, ‘-와/과 같이’, ‘-와/과 함께’, ‘-와/과 더불어’ を伴う名詞を含む相互構文を取り扱うことにする。以下の例からもわかるように, 存在論的卓立性が高いものがこれらの形式と共に現れれば, 本稿が規定する相互を表すと考えることができる。

(63) 사람들은 공연을 보거나 전시회를 감상하면서 예술가들과 같이 숨쉬고 교감한다。(人々は公演を観たり, 展示会を鑑賞したりしながら, 芸術家たちと一緒に呼吸し, 共感する。)[조선일보사, 조선일보사, 2002]

(64) 1973 년 노벨물리학상 수상자인 에사키 레오나 박사가 35 명의 일본 과학자와 함께 21 세기 세계 경제를 주도할 유망 과학분야의 기술 혁신을 예측· 분석했다。(1973 年ノーベル物理学賞受賞者である江崎玲於奈博士が 35 名の日本の学者と共に 21 世紀の経済を主導する有望科学分野の技術革新を予測・分析した。)[동아일보사, 동아일보사, 2002]

(65) 작년 말 미국 7 대 기업의 하나인 엔론사는 회계부정이란 오명과 함께 파산하기에 이르렀다。(去年の末, アメリカの 7 代企業のうちの 1 つであるエンロン社は会計不正という汚名と共に破産するに至った。)[조선일보사, 조선일보사, 2002]

(66) 이제 우리는 그들과 더불어 세계 시민들에게 진정한 우애의 인사를 건네게 됐다。(今我々は彼らと共に世界の市民に本当の友愛のあいさつをかけることになった。)[한겨레신문사, 한겨레신문사, 2002]

(67) 가족 부양 기능이 산업화로 인해 가족의 구조적 변화와 더불어 급격히 약화되고 있다。(家族扶養の機能が産業化によって家族の構造的変化と共に急激に弱化している。)[현대불교신문 편집부, 현대불교신문, 1995]

つまり, 例文(63), (64), (66)では, 存在論的卓立性の高いものがまた異なる存在論的卓立性の高いものと一緒になって何かを成し遂げようとしていることを表しているのに対して, 例文(65), (67)では, 存在論的卓立性の低いものが 1 つの要因となって, ある状況が成立していることを表している。例文(65), (67)は, 엔론社や機能が汚名や構造変化と一緒に同じ動作を遂行する状況を想像することができない。

しかしながら, 例文(63), (64), (66)は単純に相互と認める根拠に乏しい。というのは, 相互は 2 つの相互者が何らかの意志をもって同じ動作を遂行する

という言語外状況が想定されなければならないのに, これらの例文では, そのような言語外的状況が想定されない可能性もあるからである。本稿では, 江波戸文康(2005)の議論を参考にして, これを相互というより同伴を表すほうがより適当だと考える³⁶。

5. 相互構文の類型化

本稿では, 2つ以上の関与者(相互者)が何らかの意志をもって, 同じ動作を遂行するという言語外的状況を表すものと相互を規定している。また, レニングラード学派の方法論を採用し, 機能=意味論的な相互性という観点から現代朝鮮語の相互構文を分類すると, 以下のようになる(それぞれの例文は本論で使用したものを再び示している)。

<<形態論的な方法による相互構文>>

①ヴォイス接尾辞による相互構文

(5) 창선 마을에서 나는 아이들과 섞여 물수제비를 떴다.(チャンソン村では私は子供たちとまざり, 水切りをした。)[곽재구, 한양출판사, 1993]

(6) 비즈니스맨이 상대와 호흡을 맞춘다.²⁷(비즈니스맨が相手と呼吸を合わせる。)[김양호, 영언문화사, 2001]

②疑似接尾辞による相互構文

(9) 찾아온 민우는 병약하다고 부모님이 반대하는데도 불구하고 오랫동안 사귀었던 여자친구와 결혼한다고 했다.(訪ねてきたミンウは病弱だと両親が反対するにも関わらず, 長い間付き合っていたガールフレンドと結婚すると言った。)[조선일보사, 조선일보사, 2002]

(19) 아체는 독립적인 기반을 잡지 못해 1951년 인도네시아에 강제 합병되었다.(아체는独立した基盤を手に入れることができず, インドネシアに強制併合された。)[중앙일보 J&P, 중앙일보 J&P, 2000]

(21) 선생님이 아이들을 서로 인사시켜 주기만 하면, 이내 친해지는 것이었다.(先生が子供たちを互いに挨拶させてあげさえすれば, すぐに親しくなるのだった。)연, p. 1483

③接頭辞による相互構文

(42) 완준은 마당을 쓸다가 애경과 맞닥뜨린다.(완준은庭を掃いていて, 애경と出会った。)연, p. 670

(43) 오늘 중국 베이징에서 남북의 대표가 얼굴을 맞댄다.(今日, 中国の北京で南北の代表が顔を付き合わせる。)[한겨레신문사, 한겨레신문사, 1999]

<<語彙による相互構文>>

(51) 건널목 앞에서 그녀와 나는 헤어진다. (踏み切りの前で彼女と私は別れる。)[문혜원, 문학사상사, 2003]

(53) 남북 외무장관은 따로 만나지는 않았지만 반갑게 악수를 나눴다. (南北外務長官は別途に会いはしなかったが, 感激して握手を交えた。)[중앙일보사, 중앙일보사, 2002]

<<副詞による相互構文>>

(56) 그런데 2 개월 후에 나는 그 선배의 영업소에서 그와 마주쳤다. (ところで, 2ヶ月後に私はその先輩の営業所で彼と出くわした。)[박낙원, (주)북 21, 2002]

<< ‘-와/과 같이’ 等を含む相互構文>>

(63) 사람들은 공연을 보거나 전시회를 감상하면서 예술가들과 같이 숨쉬고 교감한다. (人々は公演を観たり, 展示会を鑑賞したりしながら, 芸術家たち一緒に呼吸し, 共感する。)[조선일보사, 조선일보사, 2002]

更に, 以下の相互構文を ‘어떤 유대인 지식인도 농민들과 합류했고 다른 유대인 지식인도 농민들과 합류했기 때문이다. (あるユダヤ人知識人も農民達と合流し, 他のユダヤ人知識人も農民達と合流したからだ。)’ を意味するとあえて解釈するのであれば, それを統辞論的に表現される相互構文と見做すこともできる。

(28) 유대인 지식인들이 농민들과 합류했기 때문이다. (ユダヤ人の知識人たちが農民たちと合流したからだ。)[한겨레신문사, 한겨레신문사, 2001]

しかしながら, 形態論的な標示を分類の根拠とするのであれば, この統辞論的に表現される相互構文は現代朝鮮語の相互構文と見做すべきではないだろう。

一方, 相互を意味論的に分類するのであれば, (1) 存在論的卓立性が高い2つ以上の関与者が何らかの意志で同じ動作を遂行するという典型的な相互, (2) 存在論的卓立性が高い2つ以上の関与者が外部の第三者によって同じ動作を遂行するように仕向けられる強制的な相互, (3) 存在論的卓立性が高い2つ以上の関与者が同じ動作を遂行しているが, 関与者のうちのどちらがその動作を遂行することを望んでいない可能性も少なくない同伴があるだろう。これらの例として以下のものを提示する。

【典型的な相互】

(9) 찾아온 민우는 병약하다고 부모님이 반대하는데도 불구하고 오랫동안 사귀었던 여자친구와 결혼한다고 했다.(訪ねてきたミヌは病弱だと両親が反対するにも関わらず、長い間付き合っていたガールフレンドと結婚すると言った。)[조선일보사, 조선일보사, 2002]

【強制的な相互】

(21) 선생님이 아이들을 서로 인사시켜 주기만 하면, 이내 친해지는 것이었다.(先生が子供たちを互いに挨拶させてあげさえすれば、すぐに親しくなるのだった。)연, p. 1483

【同伴】

(63) 사람들은 공연을 보거나 전시회를 감상하면서 예술가들과 같이 숨쉬고 교감한다.(人々は公演を観たり、展示会を鑑賞したりしながら、芸術家たちと一緒に呼吸し、共感する。)[조선일보사, 조선일보사, 2002]

ただし、このように相互構文を意味論的に分類することは客観的な指標を手掛かりに現代朝鮮語の相互を考察しつくさない限り、あまり有効ではないように思われる。これについては今後の課題としたい。

6. 今後の課題

本稿では、機能＝意味論的範疇としての相互性という観点から現代朝鮮語の相互構文を考察し、その構文を分類している。ここで展開した議論はあくまでも現代朝鮮語の相互構文の一端を取り上げただけであって、その全体を考察・記述してはいない。今後の課題としては(1)本稿の調査で探すことができなかった相互に関する語彙を収集し、その動詞を含む相互構文を考察すること、(2)相互構文を意味論的に分類する時の確固とした形態論的指標を探し出し、その指標によってより詳細な相互構文の分類を試みることがあげられる。

謝辞

本稿を執筆する上で、浜之上幸先生と平香織先生には心強い励ましと貴重な意見をいただきました。この場をかりて、感謝の意を表します。ありがとうございました。

註

¹ 本稿では、以下のものを厳密に区別することにする。

(1)形態論的レベルとしての相互形(reciprocal form)

(2)統辞論的レベルとしての相互構文(reciprocal construction)

(3) 意味論的レベルとしての相互(reciprocal)

(4) 機能=意味論的レベルとしての相互性(reciprocality)

機能=意味論とはそれほど一般的な術語ではない。ここでは、Bondarko(1991)に基づき、簡略的にそれを説明することにする。

Bondarko(1991:1-2)では、機能文法のはっきりした特質を文法の体系=構造的な側面(system-structural aspect)と文法の機能的な側面(functional aspect)を全体的に統一するという原則に基づいてのみ、明らかにされるものとしている。そして機能文法は形態論等によって決定される文法的な体系の別個なレベルや側面によって成立するのではなく、意味論的に相互作用する色々なレベルの要素を組み合わせる機能=意味論的な単位によって成立するとしている。つまり、機能=意味論的にある文法現象に接近するということは、伝統文法において頻繁に採用された形態論を軸としてそれを考察するだけでなく、文字通り機能や意味を踏まえてそれを考察することをも意味するのである。このように考えると、機能=意味論とは形態論的に表わされる形態論をも含む上位概念と考えることができる。例えば、機能=意味論的に相互という文法現象に接近するのであれば、それが形態論的に表わされる場合だけでなく、統辞論的に表わされる場合も、あるいは語彙論的に表わされる場合や副詞で表わされる場合も考察対象にしなければならず、これら全体を機能=意味論としての相互性に含めなければならない。本稿では、このBondarkoの考えを採用し、現代朝鮮語においてもこの相互性を踏まえた議論を展開することにする。

² Trask(1993:15)での照応詞を概略的に示すと次のようになる。

ほとんど、あるいは全く本質的な意味とか指示対象(reference)を持たない項目(item)であり、同じ文や談話あるいはその先行詞の他の項目からその解釈をするものである。例えば、‘I asked Lisa to check the proofs, and she did it. (私はリサにその証拠を調べることを頼み、彼女がそうした。)’という文では、‘she’と‘did it’という項目は照応詞であり、それらの先行詞‘Lisa’と‘check the proofs’それぞれからそれらの解釈をする。代名詞がよく知られた照応詞であるが、名詞や動詞そして文の照応詞も存在する。

³ Nedjalkov&Litvinov(1995:215)では、旧ソ連科学アカデミー言語学研究所(the Institute of Linguistics of the USSR Academy of Science)において、1960年代初頭、諸言語の構造を類型論的に研究し始めたグループをレニングラード学派と呼んでいる。レニングラード学派の歴史と変遷についてはNedjalkov&Litvinov(1995:215-219)を参照されたい。また、Nedjalkov&Litvinov(1995:238-253)において、この学派ではヴォイスとアスペクトの類型論を中心に研究し、すぐれた功績を残したことが指摘されている。

⁴ 亀井孝・河野六郎・千野栄一(1996:1030)では、術語の項目として内部形式を設定せず、内部言語形式を設定し、それを説明している。それを示すと、次のようになる。

外部言語形式に対立する概念を表す。外部言語形式は、外的に知覚される音声形式をいう。フンボルトは、言語を精神の活動の現われとみる立場から、言語の音声形式はいわば容器であって、言語を言語たらしめるのは内部形式であるとする。彼によれば、言語は精神活動の現われであるから、理想的にはどこでも同一であるべきであるが、実際には種々さまざまな差別が認

められるのは、音声の外的な違いにもよるけれども、悟性的な面では内部形式は本来同一であるはずであるが、想像力や感情の面ではさまざまな差異がみられる。そのため、言語は外的にも内的にも相違が生じるのである。

⁵ Nedjalkov&Litvinov(1995:235-238)では、レニングラード学派においてある文法現象に関する言語類型論の論集がどのような過程を経て、完成するかを示している。その一連の段階を示すと、次のようになる。

【段階Ⅰ】問題を発見する

【段階Ⅱ】調査のために選ばれたある現象の存在論(ontology)における草稿作り

【段階Ⅲ】個々の言語におけるある現象における論集を草稿する

【段階Ⅳ】問題を定式化する

【段階Ⅴ】テーマに関する会議

【段階Ⅵ】調査票と一致して、個々の諸言語に関する章を再び書く

【段階Ⅶ】提出された論文を批評する

【段階Ⅷ】論集を編集する

たとえば、アメリカの言語類型論に関する著作の中には、諸言語の記述よりは各々が自分の理論の構築にその議論を集中させ、諸言語の資料は単に自分の理論を正当化する証拠として提示するものが比較的多い。一方、レニングラード学派では、先に示した数多くの過程を経て、理論の統一性をはかり、その理論を通じて各言語の記述をしようとしている。まさに、その研究姿勢は対極にあると言える。

⁶ 亀井孝・河野六郎・千野栄一編(1996:1232)によれば、項とは、もともとは論理学で使われた術語であるが、変形文法やそれとかかわりの深い言語理論において特別な意味でつかわれるとし、文中で動作や状態を表わす賓述または述語(predicate)と対立して、その動作や状態と何らかの関係をもつ1つまたは2つ以上の実体をあらわすものとされている。

⁷ Khrakovskij(1979)は相互を取り扱う時に、意味論的役割を新しく導入しようとした先行研究のうちの1つである。Khrakovskij(1979:305)では、意味論的役割としての相互者の代わりに指示対象(referent)を使用し、相互構文と再帰構文を区別しようとしている。また、そこでは、この指示対象を表層において役割を行うものとしている。

⁸ レニングラード学派では、言語類型論に関する一連の研究を通じて、文法範疇に対しても機能=意味論的範疇を設定する。それらの研究では、voice, aspect, tense, mood という文法範疇に対して、diathesis, aspectuality, temporality, modality という術語を機能=意味論的範疇として割り当てている。diathesis については、崔昌玉(2002:1-10)に、aspectuality については、浜之上幸(1991:8-9)に、modality については、高地朋成(2008:3-4)により詳しい言及がある。

⁹ Trask(1993:46-47)によれば、接語(clitic)は以下のように規定されている。

単語と接語の間の中間的な働きを果たすもの。典型的に、接語は別の単語の音韻論的形式を持つが、強勢が置かれず、隣接する単語に音韻論的に拘束されるところの文の特定の位置を占めるように義務づけられている。接語の例としては、英語の否定 ‘-n’t’ や ‘couldn’t’ や

フランス語の主語の代名詞 ‘je’ や ‘tu’ 等々があるのに対して、バスク語の ‘be’ やトルコ語の ‘de’ もある。英語やフランス語の例は(‘je vais(I’m going)’ のように)次の定動詞に拘束され、バスク語やトルコ語の例は(‘zu be(you too)’ や ‘siz de(you too)のように’ 前の単語に拘束される(以下省略)。

¹⁰ Trask(1993:231-232)によれば、畳語(reduplication)は以下のように規定されている。

何らかの形態論的な材料(material)が語彙的目的あるいは文法的目的で単独の形式の中で繰り返されるところの形態論的現象。畳語は世界の言語において一般的な現象で、様々な形式をとり、様々な目的をはたす。例えば、マレー語は幾つかの目的のために畳語を使う。その目的とは副詞の形成(‘baik(good)’, ‘baik-baik(well)’), 不定の複数性(‘bunga(flower)’, ‘bunga-bunga(flowers)’), 語形成(‘mata(eye)’, ‘mata-mata(policeman)’ あるいは ‘memata(policeman)’)である(以下省略)。

¹¹ 亀井孝・河野六郎・千野栄一編(1996:600)では、最終接尾辞を以下のように説明している。

語末ないし変化語尾の後に添加する形で用いる接辞(affix)を語幹形成を中心機能として語尾の前に現われる通常の接尾辞(suffix)と区別して、特に “postfix” と呼ぶ慣行がある。

¹² 日本語記述文法研究会編(2009:288)には、現代日本語の相互構文を次のように説明している。

相互構文とは、「あう」を後項とする複合動詞によって表され、非相互的な動作を表す動詞を、相互的な動作に変えるものである。

- ・佐藤が山本を見つめている。(非相互的な動作)
- ・佐藤が山本と見つめあっている。(相互的な動作)

まさに現代日本語の ‘見つめあう’ という複合動詞がこの複合的な例としては適当であると思われる。

¹³ 本稿で用いる文法用語は菅野裕臣他編(1991²)に従うことにする。また、江波戸文康(2005:147)において指摘されているように、 ‘-와/과’ を格語尾と見做すか、格助詞と見做すかは研究者によって異なるが、本稿では ‘-와/과’ を格助詞と見做し、議論を進めることにする。

¹⁴ このような状況は、補助的な機能を伴う ‘-지다’ にも見て取ることができる。よく知られているように、 ‘-지다’ は形容詞にも、自動詞にも、他動詞にもつくことができる。受動に関する先行研究では、形容詞につく場合は起動を、自動詞につく場合は自発や可能を、他動詞につく場合は受動を意味するというのが一般的な捉え方である。しかしながら、 ‘-지다’ の機能に適切な名称を割り当てようとして、様々な議論を重ねたすえ、우인혜(1997:179-204)では、その機能として起動という名称を採用している。

また, 고흥근・구분관(2008:488)の記述を通じて、相互と対称を併用している状況がよくわかる。その記述を日本語に翻訳したものを以下に提示することにする(並線は本稿が加えたものである)。

‘와/과(と)’ などが同伴の副助詞としても使われる場合は概して ‘만나다(会う), 마주치다(出くわす), 싸우다(争う), 대면하다(対面する), 닮다(似る)···’ のような対称動詞(相互動詞, reciprocal verb)である時が大部分である。

一方, 홍재성 편(1997)のように相互と対称を区別しているものもある。홍재성

편(1997:13-14)では, ‘A 가/이 B 와/과 ~ (A が B と ~する)’ と ‘A 와/과 B 가/이 ~ (A と B が ~する)’ のような置き換えが可能である相互動詞と ‘A 가/이 B 를/을 C 와/과 ~ (A が B を C と ~する)’ と ‘A 가/이 B 와/과 C 를/을 ~ (A が B と C を ~する)’ のような置き換えが可能である対称動詞を区別している。

¹⁵ ロシアの研究によって単語結合論が展開されている。その理論の核心部分をなす単語結合については, 趙義成(1997:2-4)にその詳しい説明がある。それを要約すると, 次のようになる。

ロシアの文法論は大きく形態論と統辞論に分かれる。その研究対象として前者が単語変化(語形変化)と単語形成(造語)に焦点を当てるのに対して, 後者が文と単語結合に焦点を当てる。ロシアでは, 文よりも小さい単位である単語結合までも研究対象としている。単語結合は自立的品詞に属する2つの単語またはそれ以上の連結によって構成され, 単一であるが, 分節できるある概念や表相を表すのに使用される文法的統一体と定義される。この定義から思い浮かべることができる単語結合には ‘万有引力の法則’ のように幾つかの単語からなりながらも, 1つの概念を表す群名詞だけではなく, ‘本を読む’ のような用言のある単語の連結も含まれている。単語結合は, 自らの語彙=文法的特性によって結びつきを予め決定し, 文法的に主だった役割を果たす核心的構成要素と文法的に従属した単語である従属的構成要素からなる。単語結合を形成する折, 単語の結びつきには4つのものがある。それは, (1)単語付加的従位的結びつき, (2)主語と述語の結びつき, (3)動作の主体という意味を持った名詞の具格と過去分詞の結びつき, (4)状況語的意味を表す単語とそれによって規定されるその他の文の成分の結びつきである。

¹⁶ 江波戸文康(2005)では, 対称同伴動詞, 対称相互動詞, 対称比較形容詞, 対称関係名詞の例文として次のものをあげている(例文中, 省略とあるのは, 本稿で省略したことを意味する)。

対称同伴動詞: 저는 동생과 동치미를 먹으며(省略) (私は弟とトンチミを食べながら)

対称相互動詞: 그들이 하나코와 만나고 있을 즈음에(省略) (彼らがハナコと会っているころに)

対称比較形容詞: (省略) 일본식과 다른 미국식 생산성 강화방식을(省略) (日本式と違うアメリカ式の生産性強化方式を)

対称関係名詞: (省略) 김 전 대표 부부와 함께 식사를 하며(省略) (金前代表夫婦と共に食事をし)

¹⁷ 任明秀(2005:188)では, 韓国では特殊助詞のほかにも補助詞, 限定詞という名称がある点と北朝鮮では特殊助詞を ‘도움토(補助詞)’ と呼ぶ点を指摘し, 研究者たちの間で一致している特殊助詞として ‘-는/은’, ‘-도’, ‘-만’, ‘-야’, ‘-라도/이라도’, ‘-조차’, ‘-마저’, ‘-나마/이나마’, ‘-부터’, ‘-까지’ をあげている。

¹⁸ 菅野裕臣他編(1991²:1020)では, 格助詞 ‘-와/과’ だけでなく, 話し言葉でよく用いられる ‘-하고(と)’ や主に子供によって用いられる ‘-랑/이랑(と)’ も共格として認めている。また, 菅野裕臣他編(1991²:231, 562)では, ‘-와/과 같이’ や ‘-와/과 함께’ のほかに, ‘-와/과 더불어(と共に)’ や ‘-와/과 아울러(とともに)’ も取り扱っている。本稿では, これらを含む文も考察対象とし, 議論を進めることにする。

¹⁹ 現代朝鮮語のヴォイスについては、菅野裕臣(1982)の説明が詳しい。そこでは、現代朝鮮語において動詞をヴォイス的に派生する方法として、1)ヴォイス接尾辞、2)擬似接尾辞、3)分析的な形があるとしている。また、菅野裕臣他編(1991²:1044)の説明によると、ヴォイス接尾辞による派生は基本語幹に‘-이-, -히-, -리-, -기-’等のヴォイス接尾辞をつけることによってなされるとされ、その特徴として(1)その接尾辞を取り得る形容詞や動詞が限定されており、(2)ヴォイス接尾辞により派生した動詞は受動や使役を意味するだけではなく、自動や他動を表す場合があることがあげられている。

²⁰ 菅野裕臣他編(1991²:1044)の説明によれば、それによる派生は基本語幹に‘-하다, -시키다, -되다, -받다, -당하다’の擬似接尾辞をつけることによってなされるとされている。また、菅野裕臣他編(1991²:1033)では、擬似接尾辞とはその直前に‘-는/은, -도, -만’のような副助詞を挿入することによって、それ自身自立語のように語幹から分離しうる接尾辞をいうとしている。

²¹ 菅野裕臣他編(1991²:1018)によれば、補助的な単語を含む2単語以上からなる文法的な形を分析的な形と呼ぶとされている。また、菅野裕臣他編(1991²:1009-1016)では、用言の語幹そのままの形を第I語基、子音語幹で‘-으-’が接尾する形を第II語基、‘-아-/어-’が接尾する形を第III語基と呼んでいる。

²² 例えば、연세대학교 언어정보개발연구원 편(1998:1192)では、‘만나다(会う)’について(誰かが他の誰かと)互いに向き合うという意味の時の統辞論的情報として‘~이...와 만나다(~が...と会う)’を提示している。そして追加的な情報として~には(学生, 先生, 人名等のような人を表す名詞である)人名詞が割り当てられ、...にも人名詞が割り当てられることも示している。更に、この文型が‘(複数名詞)이 만나다(複数のものが会う)’と書き換え得ることも示している。

²³ 相互形に伴う終止形語尾を下称形だけに限定することでそれらの動詞を含む相互構文の真の意味を捉えることができないのではないかと疑問に思う人もいるかもしれない。しかしながら、本稿では、現代朝鮮語の相互構文がどのように表現されるかを考察するものであって、相互形がどのような終止形語尾を伴って現れているかを考察するものではない。これらがどのような終止形を伴って現れるかについては今後の課題である。

²⁴ これは註14に示した홍재성 편(1997)の考えに大きく依拠している。홍재성 편(1997:13-14)では、相互構文の書き換えによって、相互動詞と対称動詞を区別している。

²⁵ 本稿でいう無標形とはヴォイス接尾辞を伴わない動詞であり、有標形とはヴォイス接尾辞を伴う動詞である。

²⁶ 以下、例文を提示する時、形容詞や動詞は____で、その動作を行う動作の主体は____, その動作を受ける動作の客体は____, そして同じ動作をおこなう相互者を____で示すことにする。

また、本稿では、例文を以下のように示す。

(1) 作例した用例を示す場合は、例文に作例であることを示す。

(2) 21세기 세종계획の用例を引用する場合は、その出典先はその表記のままを使用する。

(3) 연세대학교 언어정보개발연구원 편(1998)から用例を引用する場合は、例文末に연と
いう略字とその例文のあるページを表示する。

²⁷ 形容詞や動詞が下称形を伴っていないが、終止形語尾を下称形に修正したり、語順をかえた

りして、例文として使用したものである。また、主体や客体あるいは相互者が明示されていない場合、これらを前後の文脈から探し出すことができ、それらを明示しても文法的におかしくない場合は、その例文にそれらを補って、提示することにする。

²⁸ 本稿では、述語が形容詞である文を形容詞文、述語が自動詞である文を自動詞文、述語が他動詞である文を他動詞文とし、議論を進める。また、自動詞と他動詞の定義は菅野裕臣他編(1991²:1032-33)に従うことにする。菅野裕臣他編(1991²:1032-33)における自動詞、他動詞の定義は次のようになっている。

自動詞…… 動詞のうち対象を表す格語尾-을/-를を取り得ないもの
 他動詞…… 動詞のうち対象を表す格語尾-을/-를を取り得るもの

²⁹ 換言すれば、存在論的に卓立性の高い存在、つまりより人に近い存在である相互者が同じ動作をおこなうことこそが、相互を決定する上で重要な因子になるということである。

ところで、Klaiman(1991:171-175)では、現代朝鮮語において存在論的卓立性の高い動作の主体によって存在論的卓立性の低い動作の客体がある動作を被るという受動文がそれほど多く存在しないことに言及している。

Klaiman(1991:120)で提示している存在論的卓立性の尺度は以下のものである。

一人称 代名詞	二人称 代名詞	三人称 代名詞	固有 名詞	人間一 般名詞	有生一 般名詞	無生一 般名詞
------------	------------	------------	----------	------------	------------	------------



つまり、上の図によれば、一人称代名詞が存在論的に最も高い卓立性を持ち、無生一般名詞が存在論的に最も低い卓立性を持つということになる。

菅野裕臣(1995:242)や연세대학교 언어정보개발연구원 편(1998:9-13)では、名詞クラスとして有情名詞と無情名詞を提示している。そこでは、有情名詞が‘-에게/한테’や‘-에게서/한테서’を取り得、無情名詞が‘-에’や‘-에서’を取り得るとし、形態論的にそれらの名詞クラスが区別されることに言及している。一方、崔昌玉(2007:75-172)では、現代朝鮮語の名詞クラスとしての有情名詞と無情名詞が Klaiman(1991)において提示された存在論的卓立性の高低をも明示し、更にこの存在論的な卓立性の高低がヴォイス接尾辞による受動文に大きく関与するものと見做し、議論を進めている。しかしながら、本稿では、名詞クラスとしての有情名詞、無情名詞そして存在論的卓立性の高いもの、低いもの間の違いが一般的に区別されにくいことを踏まえて、有情名詞、無情名詞という術語を避け、単に存在論的卓立性が高いもの、存在論的卓立性が低いものという言い方を使用することにする。

³⁰ それぞれの動詞における主体、客体そして‘-와/과’を伴う名詞を以下のように示す。

自動詞:主体[], ‘-와/과’を伴う名詞[]
 他動詞:主体[], 客体[], ‘-와/과’を伴う名詞[]

³¹ 本稿では, 반전단체들도 환영의 인파も存在論的卓立性が高く、意志をもってその動作を遂行することができるので、これを相互を表す動詞と見做している。これは菅野裕臣(1991)で提示

する団体名詞と考えられ得る。菅野裕臣(1991:12)では, 団体名詞を意志動詞を述語とする文の主語(助詞-에서による)となる名詞と定義している。しかしながら, 本稿では, 名詞クラスとしての団体名詞という術語を避け, あくまでも複数からなる存在論的卓立性が高いものという言い方を使用することにする。

³² 以下, 本稿では‘基本語幹+하다’, ‘基本語幹+되다’, ‘基本語幹+시키다’という構成で表されている動詞を‘+하다’, ‘+되다’, ‘+시키다’と簡略化して, 提示することにする。

³³ 本稿では, 述語が受身形である文を受動文, 述語が使役形である文を使役文とし, 議論を進める。また, 受身形と使役形の定義は菅野裕臣他編(1991²:1032-33)に従うこととする。菅野裕臣他編(1991²:1032-33)における受身形, 使役形の定義は次のようになっている。

受身形……自動詞のうち動作の主体が-에게, -에게서, -로부터/-으로부터, -에 의하여等で表し得るもの, 可能の意味を表し得るもの

使役形……他動詞のうち動作の主体が-에, -에게, -로/-으로 하여금等で表し得るもの

³⁴ Trask(1993:136)には, この不可譲渡性の関連項目として不可譲渡所有 (inalienable possession)がある。以下がその翻訳である。

所有される項目(item)が原則として所有者から分けることができないところの所有構文の1つ。例えば, ‘Lisa’s eye(リサの目)’, ‘John’s parents(ジョンの両親)’, ‘my name(私の名前)’がある。所有構文のために異なる文法形式を提示する言語もある。ハワイ語からの例には, 不可譲渡 ‘ke ki’i o Pua(プアの絵あるいは写真(つまり彼女の絵あるいは写真))’に対して可譲渡 ‘ke ki’i a Pua(プアの絵あるいは写真(つまり彼女によって描かれた絵あるいは撮られた写真))’があり, 不可譲渡 ‘na iwi o Pua(プアの骨(つまり彼女自身の骨))’に対して可譲渡 ‘na iwi a Pua(プアの骨(つまり彼女が食べている肉つきの骨))’がある。

つまり, 不可譲渡の関係にあるということは, 所有者と被所有物の関係にある, 例えば被所有物が所有者の体の一部であったり, 所有者の持ち物であったりするということである。

³⁵ 極端な言い方をすれば, 副詞 ‘서로’ が文に出現すれば, その文は相互を表すということになる。しかしながら, 何らかの形態論的証拠も提示せず, 単に意味の解釈だけで説明するのは説得力があまりに乏しい。本稿では, これについて詳しく論じることはしない。なぜ副詞 ‘서로’ が文中に出現すれば, 必ず相互を表すようになるかについては今後の課題である。

³⁶ 江波戸文康(2005:144)では, 格助詞 ‘-와/과’ と ‘-와/과 함께’ を置き換えることができるかによって, 動詞を同伴動詞と相互動詞に分類している。そこでは, 置き換え可能であれば, その動詞が同伴動詞であり, 置き換え不可能であれば, その動詞が相互動詞であるとする。

資料検索コーパス

21 세기 세종계획 (<http://www.sejong.or.kr/>)

参考文献

고영근·구분관 (2008) 『우리말 문법론』 서울:집문당.
연세대학교 언어정보개발연구원 편 (1998) 『연세 한국어사전』 서울:두산동아.

- 우인혜 (1997) 『우리말 피동 연구』 서울: 한국문화사.
- 趙義成 (1997) 「현대 한국어의 단어결합에 대해서」 『朝鮮學報』 第 163 輯 天理: 朝鮮学会, 1-36.
- 홍재성 편 (1997) 『현대 한국어 동사 구문 사전』 서울: 두산동아.
- 池上嘉彦 (2000) 『『日本語論』への招待』 東京: 講談社.
- 任明秀 (2005) 「現代朝鮮語의特殊助詞 ‘-도’ について」 『韓國語學年報』 第 1 号 千葉: 神田外語大學 韓國語學會, 155-215.
- 江波戸文康 (2005) 「現代朝鮮語의-와/-과について」 『韓國語學年報』 第 1 号 千葉: 神田外語大學 韓國語學會, 115-153.
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一編 (1996) 『言語学大辞典 第 6 卷 [術語編]』 東京: 三省堂.
- 亀山健吉 (1984) 「フンボルトの日本語研究」 『言語と精神: ガヴィ語研究序説』 東京: 法政大学出版局, 601-665.
- 菅野裕臣 (1982) 「朝鮮語(ヴォイス)」 『講座日本語学 10』 東京: 明治書院, 280-291.
- _____ (1995) 「朝鮮語語彙のクラスをめぐって」 『朝鮮文化研究』 2 東京: 東京大学朝鮮文化研究施設, 229-248.
- 菅野裕臣・早川嘉春・志部昭平・浜田耕策・松原孝俊・野間秀樹・塩田今日子・伊藤英人共編 金周源・徐尚揆・浜之上幸 協力 (1991²; 1988) 『コスモス朝和辞典』 東京: 白水社.
- 久野暲 (1978) 『談話の文法』 東京: 大修館書店.
- 言語学研究会編 (1983) 『日本語文法・連語論(資料編)』 東京: むぎ書房.
- 小学館・金星出版社共同編集(油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎編) (1993) 『朝鮮語辞典』 東京: 小学館.
- 高地朋成 (2008) 「現代朝鮮語의連体形語尾 ‘-ㄷ-ㄷ’ 小考」 『韓國語學年報』 第 4 号 千葉: 神田外語大學 韓國語學會, 1-20.
- 崔昌玉 (2002) 「現代朝鮮語におけるヴォイス接尾辞を取り得る動詞について—統辞論的, 意味論的観点からの一考察—」 『ユーラシア言語文化論集』 5 千葉: 千葉大学ユーラシア言語文化論講座, 1-28.
- _____ (2007) 『現代朝鮮語의ヴォイス接尾辞について—音韻論的, 形態論的, 統辞論的, 意味論的観点を中心に—』 千葉大学博士論文(未公刊), 千葉: 千葉大学.
- 趙義成 (1994) 「現代朝鮮語의-에서格について」 『朝鮮學報』 第 150 輯 天理: 朝鮮学会, 19-72.
- 陳満里子 (1996) 「現代朝鮮語의-로格について—単語結合論の観点から—」 『朝鮮學報』 第 160 輯 天理: 朝鮮学会, 1-64.
- 仁田義雄編 (1991) 『日本語のヴォイスと他動性』 東京: くろしお出版.
- 日本語記述文法研究会編 (2009) 『現代日本語文法 2』 東京: くろしお出版.
- 浜之上幸 (1991) 「現代朝鮮語의アスペクト的クラス」 『朝鮮學報』 第 135 輯 天理: 朝鮮学会, 1-59.
- フンボルト (1984) 『言語と精神: ガヴィ語研究序説』 東京: 法政大学出版局.

- 村木新次郎 (1991a) 『日本語動詞の諸相』 東京:ひつじ書房.
- _____ (1991b) 「ヴォイスのカテゴリーと文構造のレベル」 『日本語のヴォイスと他動性』
東京:くろしお出版, 1-30.
- 吉澤靖 (2006) 「中期朝鮮語における体言の助詞ゼロの形について」 『韓国語学年報』 第2号 千
葉:神田外語大学 韓国語学会, 101-123.
- Bondarko, A. V. (1991) *Functional Grammar: A Field Approach*, Amsterdam/Philadelphia:
John Benjamins.
- Evans, N. (2008) “Reciprocal constructions: Toward a structural typology” , In Köning,
E. and V. Gast (2008), 33-103.
- Frajzyngier, Z. and T. S. Cufi (eds.) (2000) *Reciprocals*, Amsterdam/Philadelphia:John
Benjamins.
- Khrakovskij, V. S. (1979) “Diathesis” , *Acta Linguistica Academia Scintiarum Hungaricae*
29:289-308.
- Köning, E. and V. Gast (2008) “Reciprocity and reflexivity- description, typology and
theory” , In Köning, E. and V. Gast (2008), 1-31.
- _____ (2008) *Reciprocals and Reflexives*, Berlin/New York:Mouton de
Gruyter.
- Nedjalkov, V. (2007) “Overview of the research. Definitions of terms, framework, and
related issues.” , In Nedjalkov (ed.), 3-114.
- Nedjalkov, V. (ed.) (2007) *Typology of Reciprocal Constructions*, Amsterdam/Philadelphia
:John Benjamins.
- Nedjalkov, V.P. and V.P. Litvinov (1995) “The St Petersburg/Leningrad Typology Grop” ,
In Shibatani, M. and T. Bynon (eds) (1995), 215-271.
- Shibatani, M. and T. Bynon (eds) (1995) *Approches to Language Typology* ,Oxford:Oxford
University Press.
- Trask, R. L. (1993) *A Dictionary of Grammatical Terms in Linguistics*, London and New
York:Routledge.

현대한국어의 상호구문

최창옥
마쓰야마 대학

본고의 목적은 현대한국어의 상호구문(reciprocal construcion)을 고찰, 기술한 다음에 현대한국어의 상호구문을 분류하는 데 있다. 그 상호구문을 기술할 때, 사용하는 본고의 방법론은 레닌그라드 학파가 제창한 기능=의미론적인 범주로서의 상호성(reciprocality)이다.

일반언어학에서는 어떤 언어의 문법범주를 규정할 때는 형태론적인 증거가 전통적으로 중요시되어 왔다. 그러나 어떤 문법현상을 형태론적으로 고찰해도 어떤 언어에서는 형태론적인 문법범주와 맞는 형태가 있는 데 반해 다른 언어에서는 형태론적인 문법범주와 맞는 형태조차 찾지 못하는 경우도 있다. 그런 상황을 해결하기 위하여 레닌그라드 학파는 기능=의미론적인 상호성을 제창한다.

기능=의미론적인 상호성에는 형태론적으로 파생되는 상호, 통사론적으로 표현되는 상호, 어휘로 표현되는 상호, 그리고 부사로 표현되는 상호 등등이 포함되어 있다. 그런 분류방식을 현대한국어에 적용하면, 현대한국어의 상호로서 (1)형태론적으로 파생되는 상호, (2)부사로 표현되는 상호, (3)어휘로 표현되는 상호, (4) '-와/과 같이' 등이 포함되는 상호가 있다는 것이 본고의 고찰을 통하여 밝혀졌다. 그리고 본고에서 현대한국어의 상호를 (둘 이상의 관여자가 자기 의지로 같은 동작을 수행하는) 전형적인 상호, (관여자 외의 제삼자가 관여하는) 강제적인 상호, (둘 이상의 관여자가 같은 동작을 수행하려고 하는지 안 하는지가 명확하지 않은) 동반을 의미론적으로 분류하였지만, 그런 분류는 형태론적인 증거가 부족하다는 점을 감안해서 앞으로 재검토할 여지가 있다는 결론을 내렸다.

앞으로의 과제로서는 상호를 표현하는 동사를 더 자세하게 조사해야 한다는 점과 현대한국어의 상호를 분류할 때, 사용하는 형태론적인 증거를 찾아야 한다는 점을 들겠다.